

国語 七一	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番	とく 取り組んだ日 日
----------	--------------------------	----	---	---	---	-------------------

「泳ぐ」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に合うように直し、書きましょう。

- ① 犬が（泳ぐ）。
- ② 流れの速い川は、あぶないので決して（泳が）ないこと。
- ③ 選手になりたいので、最後まで絶対に（泳ぎ）ます。
- ④ （泳ぐ）ときは、ゴーグルをしている。
- ⑤ あと二十五メートル（泳げ）ば、練習が終わる。
- ⑥ 「最後までがんばって（泳げ）」と父にはげまされた。

国語 七一二	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

「続く」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましよう。

- ① ここから展望台までは、急な上り坂が（**続く**）。
- ② リコーダーは強くふきすぎると、息が（**続か**）ない。
- ③ 上巻かんの後は、下巻かんに（**続き**）ます。
- ④ このまま雨のふらない日が（**続け**）ば、水不足の心配がある。
- ⑤ ひなん訓練くんれんでは、間を空けずに前の人に（**続こ**）う。
- ⑥ もう五日も雨の日が（**続き**）た。明日こそは晴れてほしい。

国語 七一三	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

「落ちる」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましよう。

- ① くつについたどろが、なかなか（落ち）ない。
- ② 野球では、打ったボールが線の外側に（落ち）たら、ファウルだ。
- ③ サルも木から（落ちる）。【ことわざ】
- ④ 日が（落ちる）とき、夕焼けで西の空が、赤やピンクに見えること
がある。

⑤ 近くに雷が（落ちれ）ば、ていでん停電になるかもしれない。

国語 七一四	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日 月 日

「見える」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましょう。

- ① 真っ暗で、何も（見え）ない。
- ② 冬の晴れた日には、教室から富士山が（見え）ます。
- ③ この部屋のまどからは、海が（見える）。
- ④ 都庁とちやうに雲がかかっているように（見える）ときは、雨のことが多い。
- ⑤ キャンプファイヤーの後、流れ星が（見えれ）ばいいな。

国語 七一五	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

とく
取り組んだ日
月 日

「見る」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましよう。

- ① 問題をとき終わるまでは、答えを（見）ない。
- ② 話を聞くときは、話している人をしっかりと（見）ます。
- ③ 夜、外に出て、星を（見る）。
- ④ 車が来ていないかを（見る）ときは、右・左・右の順にたしか
める。じゆん
- ⑤ 時計を（見れ）ば、今は何時か分かる。
- ⑥ 「しっかりとボールを（見ろ）」と、コーチに言われた。

国語 七一六	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

「交わる」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましょう。

① 線路の二本のレールは、どこまでも同じはばで続き、決して
(交わら) ない。

② ここで中央通りと晴海通りが (交わり) ます。

③ 三本の道が一か所で (交わる)。

④ 直線と直線が (交わる) とき、直角ができることがある。

⑤ 朱しゆに (交われ) ば、赤くなる。【ことわざ】

国語 七―七	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

「食べる」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましょう。

- ① ネコが、なかなかえさを（**食べ**）ない。
- ② 自分の分は、残さずに全部（**食べ**）ます。
- ③ 池のコイが、えさを（**食べる**）。
- ④ 給食を（**食べる**）ときは、はんの友達といっしょに食べます。
- ⑤ よくかんで（**食べれ**）ば、食べ物が消化されやすくなります。
- ⑥ 「好ききらいせずに、何でも（**食べる**）」と、父にいつも言われて
いる。

国語 七―八	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

「入れる」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましよう。

- ① 学習に関係のない物は、筆箱に（入れ）ない。
- ② さとうの後に、しょう油を（入れ）ます。
- ③ 自転車のタイヤに空気を（入れる）。
- ④ ボールに空気を（入れる）ときは、入れすぎないように注意する。
- ⑤ 最後に電池を（入れれ）ば、モーターカーの完成だ。
かんせい
- ⑥ 念ねんには念を（入れよ）。【ことわざ】

国語 七一九	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

「書く」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましょう。

- ① 名前を（書か）ないと、だれのものか分からない。
- ② 作文では、一行目に題を（書き）ます。
- ③ 段落のはじめは、一ます空けて（書く）。
- ④ 文章を（書く）ときは、習った漢字を使って書く。
- ⑤ あと五文字（書け）ば、今日の宿題が終わる。
- ⑥ 「字を書くときはていねいに（書け）。」というのが、ぼくのおじ
いさんの口ぐせだ。

国語 七—十	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番
-----------	--------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

「閉じる」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましよう。

- ① ちようつがいがゆるむと、ドアがきちんと（閉じ）ない。
- ② 話を聞くときは、口を（閉じ）ます。
- ③ 雨がやんだので、かさを（閉じる）。
- ④ 読みかけの本を（閉じる）ときは、しおりをはさむとよい。
- ⑤ 目を（閉じれ）ば、大好きな風景がうかんでくる。
- ⑥ 「水門を（閉じろ）」という指令がくだった。